

特集

たのしい雪が降る

札幌は、年間6メートルを超える雪が降るまち。

人口190万人以上の大都市で、これほどの雪が降る例は、世界の中でもほかにありません。

白い雪に覆われたまちでは、多くの人々がため息をつきます。

除雪の苦勞、交通障害、歩きにくいツルツル路面、寒さ…

降り続ける雪を眺めながら憂鬱な気分になったりもします。

だけど、思い返してみると、子どもの頃は雪が大好きでした。

冬の初めに真っ白な雪が降り積もった朝のワクワク感、

北海道で生まれ育った人ならわかりますよね？

スキー、雪合戦、わけもなく転げ回ったりして、

子どもにとって雪は遊び道具であり仲のいい友だちだったはず。

それが、大人になるほどに、雪を嫌われ者にしてしまう。

あんなに楽しかった冬が、早く終わってほしい冬になっている。

それって、もったいないと思いませんか？

人間がどう抗っても、北海道の冬には雪が降ります。

ならば、暗い顔して雪と向き合うよりも、

とことん雪を楽しんだ方が勝ちだと思えます。

さっぽろ雪まつりをはじめ、冬の北海道には多くの海外観光客が訪れますが、

多くの人々は「世界有数の美しい雪」を見に来るといいます。

そう、北海道に降る雪は、世界が憧れる雪！

それは、誇りに思ってもいいことではないでしょうか？

子どものように、観光客のように、

見方を変えて雪を味方にすれば、冬はもっと楽しくなる。

今日も、明日も、札幌のまちには楽しい雪が降ります。